

科目名	音楽Ⅰ	単位数	2 単位	学科・学年	全科・1年																																									
使用教科書	MOUSA1 (教育芸術社)			副教材等																																										
学習目標	<p>音楽の幅広い活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けるようにする。 (2) 自己のイメージをもって音楽表現を創意工夫することや、音楽を評価しながらよさや美しさを自ら味わって聴くことができるようにする。 (3) 主体的・協働的に音楽の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、音楽文化に親しみ、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていく態度を養う。</p>																																													
学習評価	<p>○ 次の3つの観点に基づき、学習内容のまとまり（定期考査までを学習のひとまとまり）ごとに下の評価規準により評価を行い、学年末に5段階の評定に総括します。</p> <table border="1"> <tr> <td>①知識・技能</td> <td colspan="4"> <ul style="list-style-type: none"> ・歌唱・器楽の技能と表現を習得するため、積極的に取り組んでいるか。 ・音楽に関する色々な記号や名称、基礎・基本を理解するように努めているか。 </td> </tr> <tr> <td>②思考・判断・表現</td> <td colspan="4">芸術的・音楽的な思考に基づいて判断できているか。</td> </tr> <tr> <td>③主体的に学習に取り組む態度</td> <td colspan="4">授業中の態度と内容への関心度。意欲的に授業に参加し課題に対する取り組みができているか。</td> </tr> <tr> <td rowspan="5">  </td> <td>評価方法\観点</td> <td>①</td> <td>②</td> <td>③</td> <td>備考</td> </tr> <tr> <td>学習状況観察</td> <td>◎</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>自己評価の実施</td> </tr> <tr> <td>プリント教材</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>習熟度に合わせて補助教材</td> </tr> <tr> <td>ノート提出</td> <td>◎</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>学期に1～2回提出</td> </tr> <tr> <td>実技試験</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>◎</td> <td>確認テスト</td> </tr> </table> <p>※表中の◎は観点の中でより重視するところです。</p>					①知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> ・歌唱・器楽の技能と表現を習得するため、積極的に取り組んでいるか。 ・音楽に関する色々な記号や名称、基礎・基本を理解するように努めているか。 				②思考・判断・表現	芸術的・音楽的な思考に基づいて判断できているか。				③主体的に学習に取り組む態度	授業中の態度と内容への関心度。意欲的に授業に参加し課題に対する取り組みができているか。					評価方法\観点	①	②	③	備考	学習状況観察	◎	○	○	自己評価の実施	プリント教材	○	○	○	習熟度に合わせて補助教材	ノート提出	◎	○	○	学期に1～2回提出	実技試験	○	○	◎	確認テスト
①知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> ・歌唱・器楽の技能と表現を習得するため、積極的に取り組んでいるか。 ・音楽に関する色々な記号や名称、基礎・基本を理解するように努めているか。 																																													
②思考・判断・表現	芸術的・音楽的な思考に基づいて判断できているか。																																													
③主体的に学習に取り組む態度	授業中の態度と内容への関心度。意欲的に授業に参加し課題に対する取り組みができているか。																																													
	評価方法\観点	①	②	③	備考																																									
	学習状況観察	◎	○	○	自己評価の実施																																									
	プリント教材	○	○	○	習熟度に合わせて補助教材																																									
	ノート提出	◎	○	○	学期に1～2回提出																																									
	実技試験	○	○	◎	確認テスト																																									
履修上の注意	<p>本授業では、世界中の人々に親しまれ、愛されてきた古い時代から現代に至るまでの幅広い音楽を学習する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歌唱活動においては、歌唱に対する意欲を高め、発声の基本や視唱力の育成、さらに曲種に合った歌い方を身につける。 ・器楽活動においては、器楽での活動を通して楽器の音色や表現に親しみ、音楽技能の伸長をはかるとともに、その特長を生かした表現の良さを味わう。 ・鑑賞活動においては、多種多様な音楽を鑑賞し、歌唱や器楽の表現上の効果と歴史的背景などの特長を学ぶ。 <p>個人での活動もあるが、グループでの活動も多くあるため、グループ活動を積極的に取り組むことができる人物が望ましい。授業では特別な予習や復習の必要はないが、日常生活にある多くの音と音楽に耳を傾けてほしい。</p>																																													

学期	月	学習内容（題材名）	時数	学 習 活 動	評 価 方 法 等	
		評価方法については、上記の学習評価①～③の観点から総合的に評価する。				
一 学 期	4	オリエンテーション	1	授業内容・準備物を理解する。	①	
	5 6	歌唱 校歌・愛唱歌	3	姿勢や身体の使い方、呼吸法等に気をつけて歌う。	③(音色・リズム・速度)	
		音楽理論 譜表・音名・音程・音価	2	音楽を形作っている要素と、言葉の意味、それらの働きを理解する。	①(形式・構成)	
	4 7	ソルフェージュ 聴音 ※他の教材と並行しながら行う	3	音を正確に聴き、それらを正確に楽譜にできる力を身につける。	②③ (音価・音程・ リズム・速度)	
		5 7	歌唱 アンサンブル	5	一人一人が主体的、積極的に歌いハーモニーを意識して音の響きを味わう。	①③ (音色・リズム・ 速度・構成)
	7	鑑賞 西洋クラシック音楽・ミュージカル	4	楽曲の文化的・歴史的背景や、作曲家及び演奏者による表現の特長を理解する。	①② (鑑賞の技能)	
		歌唱 ヴォイスアンサンブル	6	一人一人が主体的、積極的に歌い各パートの役割やハーモニーを意識してアンサンブルの喜びを味わう。	①②③(音色・旋律・ハー モニー・構成)	
	二 学 期	9 10	器楽 ボディーパーカッション	9	自己の体を楽器として用い、音色を工夫しながら演奏する。共通のイメージを持ってアンサンブルにふさわしい表現を心掛ける。	①②③ (構成・リズム・ 速度・音色)
		9 12	ソルフェージュ 聴音 ※他の教材と並行しながら行う	4	音を正確に聴き、それらを正確に楽譜にできる力を身につける。	②③ (音価・音程・ リズム・速度)
		11	音楽理論 コードネーム	4	音楽を形作っている要素と、言葉の意味、それらの働きを理解し和音の違いによる音の響きを味わう。	② (構成・形式)
器楽 ピアノ			8	ピアノの音色や奏法の特長を生かして演奏する。	①③ (音色・構成・リズム)	
三 学 期	1 2	鑑賞 世界の音楽	1 2	それぞれの国や地域の音楽的特徴、曲想と音楽を形作っている要素との関わり、文化的・歴史的背景を理解する。	② (音色・旋律・リズム)	
		器楽 ギター	9	ギターの音色や奏法の特長を生かして演奏する。楽器の音色の特長と表現上の効果との関わりを感じ取る。	①②③ (音色・リズム・構成)	
2	歌唱 合唱	9	一人一人が主体的、積極的に歌い、各パートの役割やハーモニーを意識して合唱の喜びを味わう。共通のイメージをもって、楽曲にふさわしい表現を心掛ける。	①②③ (音色・構成・リズム)		